



## 馬鈴薯の産地を守ろう!!

# 「ジャガイモシストセンチュウ」 侵入防止のお願い

南富良野町の基幹産業である農業。中でも人参に次いで大きな作付面積を占める馬鈴薯は、我が町の経済にとって重要な主力作物です。しかし今、道内では「ジャガイモシストセンチュウ」という害虫による被害が拡大しつつあり、生産者の心配が広がっています。

この害虫は、寄生した種イモや土壤に付着して感染地域を広げており、昭和47年に後志管内で初めて発見されて以降、網走・釧路・根室・渡島・十勝管内へと広がり、上川北部でも発生が確認されています。

もし、本町で発生し感染拡大を防止できなければ、馬鈴薯の収量が大幅に減少するだけでなく、風評被害や栽培ができなくなる危険性があるなど、種イモ産地を誇る我が町に計り知れない被害をもたらします。

本町での発生はまだ確認されていませんが、ジャガイモシストセンチュウの徹底した侵入防止対策を図るため、一般の方は農家の畑に入らないようお願いいたします。

### 「ジャガイモシストセンチュウ」とは?

馬鈴薯の根の外側に付く1ミリメートル弱の球形のもので、1つのシスト(卵が入った袋)の中に50~500個の卵が入っています(写真右上)。

これがふ化して幼虫、成虫(写真右下)となり、馬鈴薯の根から養分を吸収するために生育不良をもたらす枯らしてしまいます。土壤中の卵は、シストで保護されていて10年以上生存することが可能であり、また、有効な農薬がいまだ開発されていないことから、一旦発生するとその撲滅は困難です。



根に寄生した球形のシスト  
(1ミリメートル弱)

### 感染原因

ジャガイモシストセンチュウは、自力では1年に1メートルほどしか移動できないため、主に次のことが感染の原因に挙げられています。

風に飛ばされる土に混じって飛散します。

雨や雪解け水に流されて拡散します。

農機具や自動車の車輪、長靴などに付着した泥や球根、苗木などに付着した土壤とともに運ばれます。



卵からふ化した成虫  
(1ミリメートルほど)

### 感染拡大を防ぐには

家庭菜園で馬鈴薯を植えるときは、正規に販売されている種イモを使用すること。

農家の畑に入るときは、専用の長靴か靴カバーを使用すること。

疑わしい症状を見つけたときは・・・ 農林課(農務係) ☎ 52-2178 までご連絡ください。